

体験活動「竹で遊ぼう！」 ～彦根市立城北小学校PTA～

彦根市立城北小学校PTAでは、ウィークエンドの活動として、12月7日(土)に「竹で遊ぼう！」と題した体験活動を実施しました。この活動は、地元の「佐和山の森を美しくする会」や城北学区の青少年育成協議会、民生委員・児童委員の方々のご協力を得て、例年冬の行事として開催しています。この活動に用いる竹細工の材料は、11月に佐和山竹林整備の会をはじめ地域の方々から竹林整備活動として切り出してくださり、事前に準備して下さったものです。



当日は、早朝から竹細工や豚汁、焼き芋の準備を、地域の方とPTAウィークエンドクラブ部員とが協力して行い、会場には、竹剣玉・門松・花筒・竹コップ・竹ペンダントなど、地域の方が作ってくださったお手本の竹細工の作品も並べられました。受付を済ませた子供たちは、芋を新聞紙で包み、水に浸した後、アルミホイルで二重に包み、焼き芋の用意をします。

作り方を教えてもらった子供たちは、のこぎりや鉋・ドリルなどの道具を使って、保護者の方や地域の方に手伝ってもらいながら、真剣な眼差しで制作活動に没頭。作品が完成すると、早速できあがったばかりの竹ぼっくりを使って見せたり、箸置き、門松をお互いに見せ合ったりして、とても満足げな姿が印象的でした。

竹細工の後、みんなで後始末をしてから、豚汁や焼き芋をいただきました。寒い外での制作活動で冷えた体が、ほかほかと暖まりました。「おいしい!」と、豚汁をおかわりする子も多かったです。

このような体験とおとして、地域での世代を越えたつながりが広がるとともに、身近な自然環境に目を向け、くらしとのつながりを考えることで、子供たちが環境問題に自ら取り組んでいこうとするよいきっかけとなることを願っています。

DATA
日時 令和元年12月7日
場所 彦根市立城北小学校

環境フォーラム湖東 滋賀県の「マザーレイク21計画」に基づき、計画を具体的に進めるために住民・事業者・学校・行政によって設立された湖東圏域の地域フォーラム。環境意識の向上と会員のネットワークを構築し、各種活動を展開して環境問題に対する理解を深めるとともに、湖東地域からよりよい環境を創りだしていくために活動しています。

編集後記

■「マザーレイク21計画」に関連しそうなものとして、滋賀県では「みどりのみずべの将来ビジョン」策定が進められています。既にパブリックコメントの受付は終了してしまいましたが、琵琶湖の保全を前提とした上で、魅力ある資源を損ねることなく、さらなる利活用を目指したビジョンとなるようです。「マザーレイク21計画」の改訂と共に次年度以降の動きが気になりますね (KS)

環境フォーラム湖東 新規会員募集中!

ちょっと環境の勉強をしてみたいという方、すでに環境に関する活動をされている方や企業・団体など、どなたでもご参加いただけます。右記事務局までお気軽にお問い合わせください。詳細をご連絡いたします。



環境フォーラム湖東 情報交流誌
エコトピア 第35号
令和2年3月

発行：環境フォーラム湖東
連絡先：〒522-0071
彦根市元町4-1
滋賀県湖東環境事務所内
電話：0749-27-2255
FAX：0749-27-1688
URL：https://www.f-koto.org
f https://www.facebook.com/f.koto.org

エコトピア

ecotopia

35

Photo Gallery

湖東の生き物の仲間



アセビ

ツツジ科

やや乾燥した林地や山の尾根で生育、1.5～3mの常緑低木。つやのある厚い葉と垂れ下がる白い花の穂との調和が美しい。葉や花に毒があり動物に食べられないことで庭木や公園の植え込みに利用される。馬がこの葉を食べると苦しむので馬酔木(アシビ)の名がある。

多賀方面、湖東山地山裾で白い花を見つけたら匂いをかいでも楽しい。

Photography by NISHIZAWA Kazuhiro

「エコサロン」は環境フォーラム湖東の交流会。
詳しくはHP、チラシにて！
<https://www.f-koto.org>



今回は、「一集落一農場」方式で地域の農地を守っておられる彦根市肥田町の「農事組合法人ファーム肥田」から、代表理事の成宮一郎氏に「肥田の農地は、肥田で守る！」と題してお話いただきました。

ファーム肥田は平成 22 年に設立されました。それまでの肥田町の農地は未整備で排水路も土水路であったことから、非効率で多大な維持管理労力が費やされていましたが、国の事業を活用して地区画を拡大し排水路を整備したことにより、生産性が高い大規模経営が可能な農村地域を実現されました。

自分たちの農地は自分たちで守りたいという思いから法人化されました



が、将来的に安定した経営を継続するにはご苦労があったようです。

定期的な役員会を開き、作業工程の調整や大型機械オペレーターの確保や教育、水稻だけでなく野菜など売れる農産物の生産について検討されました。各地で次世代の担い手確保に苦労されている中、現在のところ、肥田町の住民だけで作業員を確保されているようで、今年は若者も新たに参加されています。高齢化になり、親から子供へ引き継ぐのは近年大変となっていますが、地元参加者の方は、「親子のいつもの接し方と飴と鞭や」とおっしゃっていました。

町おこしとしては、収穫した米を地域の酒造会社に持ち込み、地酒「肥田城」を醸造し販売されています。

また、肥田地域は、地域の環境を守るための活動も盛んで、近くの宇曾川の堤防や河川敷の清掃・除草活動も実施されています。肥田町内の小川では「水の中に住む生き物観察会」が毎年実施され、たくさんの小学生が参加しているようです。環境への配慮により、虫もたくさん見ることができるようです。

お話し後は、軽食をとりながらの歓談となりました。自由に歓談してもらいましたので、日頃の活動の紹介や苦労話や意見交換など活発な話をされて交流されていました。地元の肥田町の方もたくさん参加していただき、みんなで住みよい肥田町、愛着の持てる肥田町を継承するため力を合わせていっしょるのがわかったような気がします。

日時 令和元年10月11日(金) 19~21時

場所 彦根市肥田町公民館

話題提供 農事組合法人ファーム肥田

代表理事 成宮一郎氏



湖東環境シンポジウム

「自然に親しみ、健康づくり みんなで楽しくウォーキング」

シンポジウムは、今回初めて聖泉大学の学園祭の中で実施することになりました。講演会については、学園祭の連携企画開催ということで、聖泉大学人間科学部の多胡准教授の健康づくり講座と一緒に宇曾川沿いや地域の中の身近な植物観察や歴史について学ぶ企画にしたところ、聖泉大学の小山学長をはじめ、地域の方々もたくさん参加していただきました。

最初に大学の教室で多胡准教授による健康づくりの講義で始まり、その後屋外に出てウォーキングを行いました。途中で何か所か立ち止まり、講師の佐藤さんによる植物の説明をしてもらいました。竹の種類の見分け方、草花や木の实についても詳しく説明してもらい、参加者の皆さんはなるほどと感心されていました。歴史についての話もあり、身近な寺が歴史的価値のあるものと知ってびっくりされている方もいました。またウォーキング中はごみを拾いながらの環境美化活動も併せて行いました。

最後は大学の教室に戻って、多胡准教授によるまとめをして終わりました。天気もよかったため、楽しいウォーキングと楽しい話で、皆さん満足されている様子でした。

また、たくさんの模擬店が並ぶ出展ブースのテントでは、フォーラムが実施した観察の様子を紹介するパネル展示、流木や木の实を使ったアート体験や魚の展示と放流体験を実施しました。両日とも主に家族連れの来場者にたくさん来ていただき、「木の实でアートづくり」や「フナの鑑賞」は、にぎわっていました。特にどんぐりなどの木の实をつかったアート体験は人気で、子供はもちろんのこと大人も楽しんで、時間を忘れて作品づくりをしている方もいらっしゃいました。



魚鑑賞

約 90 名 50 名 (11/16)、40 名 (11/17)

木の实アート

子供 51 名 28 名 (11/16)、23 名 (11/17)

放流

子供 75 名 40 名 (11/16)、35 名 (11/17)



日時 令和元年11月16日(土)～17日(日)

場所 聖泉大学キャンパス「万聖祭」会場、4階401教室および宇曾川沿い周辺

講師 聖泉大学 人間科学部 准教授 多胡陽介 氏(講演会 健康の部)

環境フォーラム湖東 運営委員 佐藤 進 氏(講演会 観察の部)

おいで～な滋賀体感フェア出展

環境フォーラム湖東は、草津市烏丸半島芝生広場で毎年開催されている「イナズマロックフェス 2019」の無料エリアで併設される「おいで～な滋賀体感フェア」に昨年に引き続き出展しました。今年で2回目の出展となります。

イナズマロックフェスは、滋賀ふるさと観光大使の西川貴教さんが故郷の滋賀のために開催する「水の未来に、声をあげろ。」をテーマに開催する大型野外音楽イベントで、今年で11回目を迎え、毎年、売上げの一部を滋賀県などに寄付されています。

全国規模のイベントで、主催者発表によると2日間で9万5千人の方が来場されていました。西日本には台風が接近しており、荒天も予想される状況にもかかわらず、本当にたくさんの来場者があり、スタッフも驚くばかりでした。環境フォーラム湖東が出展するテントにも2日間で延べ833名の方が訪れてくださいました。連日顔を見せてくれる方や去年も来た顔を出してくれる方もいました。県外はもちろん東北などの遠方から来たという人もいました。

テント内では、スタンプラリー参加者の対応、在来魚のニゴロブナやカメなどの展示、ヨシ・流木アート体験、廃油でのキャンドル作りのコーナーを設置しました。

今年は、滋賀大学と聖泉大学の学生サポーターとも協力しながら実施したので、子供たちも馴染みやすく、楽しく作品を作っていたように感じました。また、淡海環境保全財団や彦根市、愛荘町、東近江環境事務所などからも御協力をいただき、たいへん賑やかになりました。

出展内容の中で特に、フナ、サワガニの水槽展示と、在来種イシガメを実際に触れることができるコーナーは大変人気で、実際につかんだりして、老若男女関係なく楽しんでいただけました。

台風が近づいていたため、突然大雨が降ったり、強風になったりしましたが、最後まで開催することができ、たくさんの方に楽しんでいただけたと感じています。当イベントでは多くの方に参加してもらい、自然について考えていただく機会ができたので、非常に満足な結果となりました。



DATA

日時 令和元年9月21日(土)～22日(日)
場所 イナズマロックフェス2019「おいで～な滋賀体感フェア」

湖東の水環境調査

環境フォーラム湖東では「身近な水環境の全国一斉調査」のCODに加えてpH、りん酸、アンモニウム、DO(溶存酸素)を測定し、国土交通省近畿技術事務所の「☆型簡易水質調査シート」を用いて評価しています。基準日は2019年6月2日でした。

●矢倉川

河口ではCOD値は高いが、アンモニウム、りん酸の値は低いです。

●猿ヶ瀬川・港湾

上流ではアンモニウム、りん酸がやや高いものの河口では希釈されている一方、CODは浄化センターの排出によって高くなっています。

●芹川

上流のきれいな水がそのまま下流に流れ下っています。

●平田川

市街地を流れる川で投棄物が多く見られますが、水質の数値は良好と判定されます。

●犬上川

上流のきれいな水が下流まで維持されています。

●宇曾川

田植え期の濁水もおさまり、数値も良好な状態にあります。

●柳川漁港・宇曾川漁港

共にほぼびわ湖並みの水質で良好でした。

●野田沼・曾根沼・神上沼

CODはやや高いものの、アンモニウム、りん酸は低い水準にあります。曾根沼の岸にはトンボのやごが多数見られました。神上沼の岸にナガエツルノゲイトウが少し見られました

●高宮池

多賀EXPASAの脇の道から下方に見える池。CODは高いがアンモニウムやりん酸は良好です。ヒシが繁茂しています。

この時期はあちこちで外来植物のオオキンケイギクを見かけます宇曾川の県道②下流左岸堤防でオオキンケイギクの除去作業がされていました。

